

1日目
～

自宅または 避難所で



避難所での女性の視点

更衣室、休憩室、間仕切など、プライバシーが保てるような空間作りが重要です。トイレは男女別々の場所を確保し、女性や子どもの安心・安全に配慮した設置にする必要があります。また、生理用品など、女性に必要なものを配布する時には、配布する人の中に女性がいることや、中身が見えないように袋に入れるなどの配慮が必要です。

困りごとや悩みは同性の相談員でなければ、話にくいことがたくさん生じてきます。避難所の女性たち同士で話し合って役割分担をしながら、声をかけ合い、共助しあいたいものです。

災害時は固定的性別役割分担が強まる傾向にあります。炊き出しなどは女性の仕事と決め付けがちですが、女性だけに負担がかからないように男女でかわることが大切です。

女性も積極的に避難所運営に参画しましょう。

(安井)

高齢者

【自宅で】

自宅での避難生活は、情報収集がラジオなどに限られます。避難所などに出向き、地元の支援情報を把握するようにしましょう。自宅避難生活では食事の配給が受け取りにくくなったりするので、日頃から食品の備えが大切です。信頼できる友人関係を日頃から築いておき、自宅の防犯等にも注意しましょう。

【避難所生活で】

避難所では、過密な環境の中、衛生状態も悪くなります。慢性疾患の悪化、口腔内の細菌により肺炎などにかかる危険性も起こります。薬の服用、口腔ケアなどに気を配り、ストレッチ体操や周辺を歩くなど身体を動かすことを心がけましょう。また、健康維持のためにも十分な水分を取りましょう。

(近藤)

障がいのある人

当分の間、医療行為を受けられなくなる可能性があります。医薬品や機器を備え、支援を得られる医療機関をリスト化しましょう。医師や関係者と、日頃から相談しておくことも必要です。

【避難所生活で】

避難所では、障がいへの理解を得られずトラブルになるケースも少なくありません。避難所のスタッフに、早めに状況や生活上の注意点などを伝えましょう。ヘルプマーク(5頁)などわかりやすい目印をつけることも方法のひとつです。

(福田)

子どもと
避難所で

避難所での生活は、幼い子どもや、親にとってストレスがたまるものです。非常持ち出し袋の中に、おもちゃやランプ、マンガ、菓子などを入れておくと、遊び場や学校がなくなってしまうた避難生活の中でも、さやかな憩いを見つけることができます。

また、親同士情報を交換できる場所を作り、協力して子どもの世話をし、預けあうなど互いに助け合いましょう。

(成田)

他にも配慮が必要なことがあります

■女性への暴力

街灯が消え、建物が崩壊した災害時には、セクハラ・性暴力が生まれやすい環境が生じます。避難所では男女別トイレ、更衣室や授乳室の設置が不安を取り除く大きな要因となります。ストレスの多い避難生活であつたとしてもDV(ドメスティックバイオレンス)やあらゆる「暴力は許さない」という姿勢を示すことも安全な環境づくりの力になります。セクハラや性暴力の訴えがあつた時や、DVの被害者が配慮を求めた時には、個人情報や被害者のプライバシーに十分注意しながら、できることから取り組むことが必要です。個人でも地域でも、理解のある女性リーダーを育成し、相談窓口などの組織作りをすすめておくことが課題でしょう。

■女性と仕事

(筑紫)

東日本大震災の際、5カ月後の「失業手当」は女性のほうが多く取得したデータ[※]にあるように、女性は非正規雇用が多く、解雇のリスクが高いことがわかります。また、復興の緊急雇用は、力仕事など男性向けの内容に偏りがちでした。女性は家族のケアや生活環境整備の役割が増え、